

巻頭言  
Greeting

× 山尾 研一  
Kenichi Yamao  
聖書宣教会  
評議員・全国同窓会長

## Profile

1971年埼玉県生まれ。5年間のサラリーマン生活の後、献身。聖書宣教会・聖書神学舎49期卒。単立町田聖書キリスト教会の牧師として現在に至る。日本キリスト教奉仕団理事、クラッシュジャパン副代表理事（事務局長兼務）。



## 「与える幸い」

受けるよりも与えるほうが幸いである。  
(使徒の働き 20章 35節)

卒業予定の皆さん、卒業式に向けてラストスパートの時期ですね。霊肉ともに支えられますように。昨年来のコロナ禍の試練の中で、学舎での学び、寮での研修生活、奉仕先教会での実践訓練の機会、すべての機会で大変な制約の中で過ごされたことでしょう。学舎に関わる教職員の皆さん、研修生の母教会、奉仕教会の皆様、研修生を支え学舎の為にお祈りくださり心より感謝申し上げます。そして主の宣教の現場に（そして同窓会に）新しいフレッシュな同労者をお送りくださる神様の御名をほめたたえます。

今回も卒業式はライブ配信での参加の為、お祝いの言葉を贈ります。まずはご卒業おめでとうございます！皆さんは講壇で校長から卒業証書を受け取った時から変わることがあります。今まで祈られ支えられさまざまな恵みを受けていた立場から、これからは祈り惜しみなく捧げ与える側に立場が変わるのです。私は卒業後数年間は行事の度に羽村に足を運んでいました。しかし次第に足が遠のき同窓会にも出なくなりました。ある年久し振りに同窓会に参加しました。そうしたら役員に選ばれたのです。こうして他の役員さんと一緒に学舎のこと同窓のことを深く知る機会が与えられ、真剣に祈るようになされました。

同窓会は、全国8地区（北海道、東北、北陸、関東、中部東海、関西中四国、九州と沖縄）に分

かれ、地区ごとに数名の役員が選ばれ奉仕をしてくださっています。各地区で特色ある活動が行われ、年に一度の研修会では宣教会の教師が招かれ、学びと交わりが続けられています。関東地区は2019年度は奥多摩バイブル・シャレーで家族一緒にBBQを行い、2020年度はコロナで休止になりました。

又関東地区の代表は全国同窓会を代表して、学舎の評議員会（詳細は通信179号の安藤能成議長の寄稿を参照）で奉仕をする特権が与えられています。学舎は昔に比べ少ない人数（専任は1名）で多くの（そしてコロナ禍での）難しい働きを担っておられます。学舎の経営責任は理事会に、評議員会には活動全般を吟味する役割が期待され、毎回真剣です。

私は研修生時代、ヘブル語初級で挫折し、崖っぷち神学生と呼ばれ、3年課程を4年過ごしました。卒業時にすべてのあわれみを使い尽くしたと思っていた自分が、今も宣教の現場に置いているのは、ただ主のあわれみです。

何でもありのこの世の中で、聖書信仰に立脚する学舎の為に、これからも祈り与え続ける者でありますように。自戒を込めて。

## No.183 Topics

- p03 教師の声
- p04 キャラバン伝道報告
- p05 卒業生の働きの中から
- p07 学びの窓

赤坂 泉

Izumi Akasaka

聖書宣教会 校長

神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。

(ピリピ 2:13)

### 振り返って

熱いお祈りと献身的な献げ物をもって学舎の働きを支えてくださる皆様に主に感謝します。

新型コロナウイルスを抜きに振り返ることのできないこの年度は、主の御手と皆様の愛をひときわ身近に感じてきました。日頃から研修生のために様々な愛の贈り物をいただきますが、春のマスク不足の頃には多数の手作りマスクを複数方面から届けていただきました。除菌剤の入手困難の頃には大きな缶でアルコールが届きました。匿名の大きな金額の献金にも励まされました。主に感謝し、神学教育は主の教会のわざであるとの告白に、いよいよ堅く立ってまいります。

行事等の面でも、11月の賛美礼拝にはオンライン配信のための素晴らしい助けが備えられ、12月には夏から延期したキャラバン伝道を実施でき、2週間に及ぶパイプオルガンの修理と整備もなされ等、主の守りを見てきました。

1月には学外で濃厚接触者となった研修生があり、2週間の自主隔離をしました。陰性の結果に一同安堵しましたが、無症状感染の恐れはいつもあり、妊婦も高齢者も連なる共同体ゆえ、細心の注意を継続しています。

### 研修生の学びと生活

研修生は教室の学びの面では集中できる環境を与えられています。一方、教会奉仕や研修生会活動においてはコロナ対応で変更や調整を要する面もあり、願ったように実現できないことも少なくありません。身体をもってする交わりに飢えているのは研修生ばかりでなく、その家族や教

職員も然り。オンラインのゲーム大会や祈祷会など工夫できることもありますが、どこか物足りなさを拭えません。

それでも、早天祈祷会とチャペルは一同が集まることができまので、主に感謝して、同窓諸師のために、また諸教会のために祈り、卒業予定者9名のために、入会志願者のために、お互いの学びと研修生活のために祈っています。

### 展望して

教師会からは飯島師が今年度をもって退任されます。難病を得ながらも定年まで奉仕してくださいました。矢吹綾子師に再び教師会に加わっていただきます。また、教会音楽科目の講師として馬場義実師と須田松子師に奉仕していただきます。津村師も教師会からは退かれますが、科目の引き継ぎに少しの時間を要するため今年は2科目教えていただきます。

さらに教職員が折にかなって加えられるように、ぜひお祈りください。特に専任教師が加えられるように、次世代の教師が起こされるように、また見えないところで仕えている職員の必要も主が満たしてくださるように。

新年度は、入会試験の結果、本科に7名、聖書科に1名を新たに迎えることになりました。聴講については引き続きかなり限定した提供になることをご理解ください。聖書講座、夏期研修講座、教会音楽夏期講習会など、オンラインで提供する働きも増えています。参加機会を広げる意味では積極的に、学びの質を担保するためには注意深く、活用してまいります。こうした面でも助け手が備えられることも祈っています。

困難の続く中にも、諸教会の皆様にあっても、振り返ったところに恵みの足跡がはっきり覚えられますようにお祈りします。また展望する先にも、事を行わせてくださる神の御手が確かでありますようにお祈りします。

## 招き Called to Serve

主はあなたがたを選んでご自分の前に立って仕えさせ

### 飯島 千雍子

Chigako Iijima

聖書神学舎 教師



人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。

(ローマ人への手紙 10 章 10 節)

信仰の決断に導かれたみことばです。人は口で告白して救われる、そこに<sup>すが</sup>縋っての決断でした。

学生時代、先輩キリスト者の賛美で聴いた詩篇のみことばが心に刻まれました。「麗しきかな主の家、わが魂は慕い求む。…雀は住处を得、雛を入れる巢を得るよう、…聞き給え、わが主、我は悪の天幕にいるよりは、神の家の門守りを、…。」(詩篇 84 篇)

賛美はみことばを歌います。『メサイア』の“Comfort ye, Comfort ye, my people!”「慰めよ、慰めよ、わたしの民を。」(イザヤ 40:1)、“I know that my redeemer lives,”「私は知っている。私を贖う方は生きておられ、」(ヨブ 19:25) 等、賛美を通して初めて聴いたみことばも数多あります。

みことばを歌う時、神のことばは歌う人にも語られます。「愚かな者は心の中で神はいないと言っている」(詩篇 14 篇) は、賛美への扉を開けてくださった恩師の作品ですが、歌う毎に人を愛される神の痛みを知りました。讚美歌の歌詞も語られます。賛美のことばに神の恵みを教えられ、信仰の告白を確認させられます。「イエスよ 宿りませ すでに外は暗し」(教会合唱曲集Ⅱ、ルカ 24 章)、「天に宝積める者は<sup>い</sup>実にも幸なるかな」(讚 513)

聖書には主の僕たちの賛美があふれています。彼らは、喜び、悲しみ、苦難、闘い、感謝、試練、悔い改め、痛み、悩みを、主の前に注ぎ出しています。(1 サムエル 1:15)。

「レビ人よ、聞きなさい。今、あなたがたは自分自身を聖別しなさい。

あなたがたの父祖の神、主の宮を聖別し、聖所から忌まわしいものを取り除きなさい。…

子たちよ、今、手をこまねいてはなりません。主はあなたがたを選んでご自分の前に立って仕えさせ、ご自分に奉仕する者、香をたく者とされたからです。」(2 歴代 29:5、11)。

このみことばは、数年前、学びのために準備した資料から新たに示されました。みことばを聴いて愕然とし、もう一度、主の前にひれ伏す者であります。

主から預かっている奉仕の前に、「自分自身を聖別しなさい」と言われる主のおことばに奉仕を委ねられていることを考えさせられています。神はモーセを呼ばれたとき仰せられました。「あなたがこの民をエジプトから導き出すとき、あなたがたは、この山で神に仕えなければならぬ。」(出エジプト 3:12) 奴隷状態にあったイスラエルの民が、神に仕えるために導き出されたように、神が、私を罪の中から贖い出してくださったのは神に仕えるためであるということ、高齢になって、もう一度確認させてくださったあわれみに感謝します。



(2008年、エベソの円形劇場で歌う)

## 02 キャラバン伝道報告 Caravan Reports

今年度はコロナ禍により、夏ではなく12月に1チーム京都へ派遣することが出来ました。マタイの福音書16章19節をテーマ聖句として、教会にこの地上で主から与えられている天の御国の鍵を、思い起こし励まし合うことを期待しました。もう1チームは、年度内の実施を祈り備えています。お祈りを感謝いたします。

木津 健博

Takehiro Kizu

2020年度 キャラバン実行委員長

### 日本同盟基督教団 京都めぐみ教会（京都府）

12月10日(木)-17日(木) 鈴木直基、李相扶、大條瑛子、菅野雪

今年はコロナ禍の中で、例年と異なる12月のクリスマスシーズンに実施しました。ギリギリまで実施できるか不透明でしたが、京都めぐみ教会の加藤先生ご夫妻も私たちと交わりを持てることを喜んでくださって、実施することができました。現地では、コロナに配慮してペンキ塗りやポスティング、クリスマス賛美の録音など人との接触を制限した内容で行われました。この状況で信徒の方との交わりが制限されたことは残念でしたが、先生ご夫妻との交わりや背後で祈り歓迎して下さる教会の皆様がおられたことが感謝でした。オンラインの画面の四角い枠に収まらない現地の空気感や周囲の人たちの生活を直に垣間見ることができるというのはキャラバンならではの醍醐味だと思います。体験するということの大切さも改めて思わされたキャラバンでした。



### 京都めぐみ教会 牧師 加藤秀典

新型コロナウイルスの感染再拡大は、やっと実現したキャラバン隊来訪に、その予定を大幅変更させるに十分なものでした。持たれるはずの信徒との接点(食事や奉仕)は、のきなみ中止に。「これが研修になるのか」受け入れ先の牧師としては責任を感じることでしたが、教会側としては、主からの恵みを豊かに受けました。対面が制限される中、精一杯でキャラバン隊のために労した教会員の献身、刻々と状況が変化する奉仕日程にあってもよく仕えてくれた研修生たち。またこの事態で必然的に多くなった牧師夫妻と研修生の時間。それらは「感染対策」の影に追いやられた交わりの本質(自分の持てるものを分かち合う喜び)を私たちに思い起こさせるものでした。そうして後に残ったのは、教会員からの名残を惜しむ声と、私の「キャラバン隊ロス」でした。

「すべての学問には前提がある」(神学序論)、「教会史は神のみわざとしての歴史。教会は2千年間周辺的なことには柔軟であったが中心的なことは固く守った」(教会史)。入会したばかりの頃、授業で聞いたことが心に残っています。聖書を中心に、奉仕者に必要な多くのことを学ばせていただきました。卒業して16年間関東の教会で牧会奉仕にあずかった後、フランス、パリでの宣教に遣わされて2年半が経ちます。

今、奉仕しているパリプロテスタント日本語キリスト教会は、1980年、日本企業から派遣された2組のクリスチャン夫妻が集まって礼拝したことに始まります。かつては駐在員家族が多く集っていましたが今は少なくなり、こちらに定住している方々を中心に30人ほどで礼拝しています。

フランスはカトリック国と言われますが、アフリカ、中東からの移民が多く、イスラム教とユダヤ教も存在感があります。プロテスタントはバプテスト教会やペンテコステ教会、福音派教会など多くの教派が教会形成していますが、最大のグループは「フランス改革派教会」と「フランスルーテル教会」が2013年に合同して誕生した「フランスプロテスタント合同教会」です。

パリ日本語教会は「合同教会」に属する一つの教会の会堂を、主日午後の時間帯に借りて礼拝しています。ユダヤ人の多い地区にあり、すぐ近くに大きなシナ

ゴグがいくつかあります。建物正面の高い所に聖書を模したレリーフが掲げられ、十戒が刻まれています。ヘブル語の文字や黒い上下に「衣の房」を垂らした隣人たちをあちこちで見かける地区で、新改訳聖書からみことばを分かち合えるのは不思議です。2020年は2度のロックダウンのため、礼拝は5ヶ月間オンラインでささげました。食事の交わりはできなくなりましたが、礼拝後に祈禱課題とメッセージの分かち合いを行っています。そのような中、昨年2人の方が救われ、洗礼式を執り行うことができました。受洗準備中の方も与えられています。神の恵みと言うほかありません。

福音派と交わりの少ない聖公会の教会に生まれ育った私は、就職した会社からドイツに派遣され、そこにある日本語教会で初めて福音信仰に触れました。そこで主の十字架による罪の赦しを経験し、聖書は誤りなき神のことばである確信が与えられて帰国しました。その後献身し、聖書神学舎に受け入れていただき、訓練を受けてみことばの宣教に遣わされています。「聖書は神のことばである」前提を大切に学び続けたいと思います。働きにおいて周辺的なことには柔軟に、中心的なことは大切にしていきたいと思います。学舎の先生方、スタッフの皆様、在校生の兄姉方、日本と世界で同じ信仰に立って主に仕えておられるすべての教職の先生方、信徒の皆様にも励まされています。祝福を祈っております。



(津村俊夫先生ルーブル見学会 ハムラビ法典での説明)





みことばの奥深さに触れて

ちから  
國分力

聖書神学舎本科4年

神学舎での4年間、聖書を原典から学ばせていただいたことは、私にとって何物にも代え難い、大きな恵みでした。決して知り尽くすことの出来ない、みことばの奥深さに触れることが出来たからです。

入会した当初、4年もあれば聖書を原語でスラスラと読めるようになるだろうと、たかをくくっていた私ですが、そんなに甘い世界ではないことにすぐに気付かされます。変形形のバリエーションが多すぎて途方にくれたギリシャ語。最初は文字として認識することすら出来なかったヘブル語。「こんなに難しいなんて聞いていない」と弱音を吐きながらも、毎回の単語クイズや、練習問題を解いていくという地道な学びの積み重ねによって、少しは理解することが出来るようになったと思います。それでも自分には十分な知識がないと落ち込むことも多々あります。その度に砕かれ、謙遜になることを教えられます。

基礎的な学びが終わると、次は原典講読、そして釈義へと進み、原語の学びはさらに高度なものになっていきます。ここでも大事なことは地道にコツコツと学びを積み重ねていくことだと思われています。辞書を引いて、単語の意味を一つ一つ調べ、文法書や神学書、注解書を何冊も読み比べながら、聖書が本来どのような意味で書かれているのかを注意深く考察していきます。それは多くの時間と労力を要するものですし、どんな

## 04 研修生の学びの証し A Student's Testimony

に調べても分からないことは沢山あります。しかし、それでも諦めずに、みことばに聞き続ける中で、新たな発見が与えられ、大きな感動を覚えることがあります。

また、今までの基礎的な学びが、後になって生かされていくことに気づくことがあります。何のために役立つのか分からないと思えるような学びが、他の学びの理解に実は役立っていること、またそれが回り回って、信仰生活や牧会の働きにまで影響してくることがあると知りました。それはまるで、パズルのピースが一つ一つ組み合わされて、絵の全体が見えてくるような感覚です。

みことばの学びは、決してすぐに答えが出るようなものではないこと、一つ一つの地道な学びの積み重ねが重要であり、忍耐と根気のいるものであることを4年間を通して教えていただいたように思います。そして、学べば学ぶほどに、自分はまだまだ何も知らないということが分かります。聖書は神のことばであり、人間の知識によって知り尽くすことなど到底出来ないのだと痛感します。それでも、御霊の助けを仰ぎつつ、みことばに聞き続ける者でありたいと思われています。

「ああ、神の知恵と知識の富は、なんと深いことでしょう。神のさばきはなんと知り尽くしがたく、神の道はなんと極めがたいことでしょう。」(ローマ人への手紙11章33節)

## 自己を知るために

田村 将  
Masashi Tamura  
聖書神学舎 教師

「この授業の目的は何ですか。」ある時、授業中に研修生からそう問われました。それは旧約研究「五書研究」の授業での一コマでした。この時間では、19世紀から現在に至るまで続けられている“五書批評学”の問題を扱っています。“批評学”ですから当然、そこで扱う研究にはいわゆる“福音派”の聖書理解とは根本的に異なる立場による資料分析などを多分に含みます。研修生には Julius Wellhausen や Hermann Gunkel に始まり、Brevard Childs や Rolf Rendtorff, Joel Baden に至るまでの研究者を取り上げて発表してもらいます。上述の研修生による問いは、Gerhard von Rad に関する発表後の質疑を終えた総括の時間に出されました。自分たちとは立場の異なる批評的な研究者の論を分析して、それが一体何になるのか、という趣旨だったと思います。聖書を誤りなき神のことばと信じて疑わない環境から来てこの授業で取り上げているような批評的学説に触れるなら、混乱は必至であることは否めません。こんなことをして何になるのか。そう思っても不思議ではないと思います。

私はこれらの批評的探究に触れることの意義を十分に伝えることができていない自らに忸怩たる思いでいます。旧新約聖書 66 巻は聖霊の完全な指導と監督の下に記され、その記述に誤りがなく、神が救いについて人々に啓示しようとされたすべてのことを含み、信仰と生活との唯一絶対の規範であると学舎が告白する聖書論はそのまま、私自身の、またこの授業の不動の前提として据えられています。特に批評的学説に対する評価と反論としては、K・A・キッチン著・津村俊夫訳『古代オリエントと旧約聖書』(1966) や『聖書釈義研究 (EXEGETICA) 第 10 号』(1999) な

どに依拠しており、それらを授業の参考文献に加えています。そうであるならば、初めから結論ありきで私たちの確信のみを取り上げればよいのではないかとの意見が聞こえて来るように感じます。生半可に批評的言説を授業の中で扱えば、聖書信仰を揺るがすことにもなりかねないのでは、と。

そのようなご批判はもっともなことであり、細心の注意で取り扱わねばならない事柄だと思えます。しかし、そのことを受け止めた上で敢えて述べさせて頂くなら、それでもこれらの批評的研究を垣間見ることの意義は大きいと言えます。それは端的に言って、自らの主張している立場や信仰を改めて確認する契機となるからです。もし、自らの意見の他には一切他の論調に耳を貸さず、それを見ることさえしないならばどうでしょうか。純粹培養された植物よりしく、それは独り善がりの脆弱な信仰ということにならないでしょうか。自分とは立場の異なる著作に触れ、それが“なに”を述べ“なぜ”そう主張しているのかを正確に知ることは大切です。先入観だけで物事を判断せず、話者や著者の意図を丁寧に読み取ること。それは聖書だけでなく一般の書物や人物に向き合う際にも必要なことではないでしょうか。私たちが聖書の真理を単なる叙述としてではなく、真に告白として持つためには、自他を本当の意味で知る必要性があります。それらを探究する姿勢は、様々な価値観やものの見方が複雑に絡み合っている現代の教会という現場に遣わされて行く際に必ず必要になると信じます。自らの告白する真理に確信を持って立ち続けることのために、広い視野と深い洞察力を養う学びを提供することができるよう願い、祈らされています。

## ◎ 2021 年度 講座案内

### 2021 Courses and Schedule

2021 年度は次のようなプログラム、講座を予定しています。各講座の詳細は、別紙案内やウェブサイトをご覧ください。このほかに聴講制度があります(詳細は事務局まで)。

## ◎ 聖書講座：金曜日10:50-12:30

聖書の基礎的な学びの機会を求めておられる方々のためのオンライン講座です。

### 前期15回：出エジプト記

講師：芳田 <sup>ひでたか</sup> 秀貴  
(前橋キリスト教会 牧師)

### 後期15回：テトスへの手紙

講師：近藤 <sup>よしや</sup> 愛哉  
(盛岡聖書バプテスト教会 牧師)

## ◎ 教会合唱講座：火曜日

聖歌隊員、聖歌隊指揮者、教会学校教師、会衆の方、賛美を学びたい方のための講座です。

コロナウィルス感染拡大防止のため、前期は中止いたします。後期はWEBサイト等で改めてご案内いたします。

## ◎ 第46回 夏期研修講座

詳細については、5月末頃にWEBサイトでご案内したいと考えています。

### 「ヘブル詩の文法」

ハバクク書3章の並行法とその意味について考える

期間：7月 5日(月)～ 6日(火)

形態：オンライン

対象：牧会者とその配偶者

講師：津村 俊夫  
(聖書宣教会 聖書神学舎教師)

## ◎ 第37回 教会音楽夏期講習会

詳細については、5月末頃にWEBサイトでご案内したいと考えています。

### 「みことばと音楽」

期間：8月中旬で調整中

形態：オンライン

(プログラムの一部は聖書宣教会にて)

対象：聖歌隊員、聖歌隊指導者、奏楽者、独唱者等、礼拝や教会の諸集会で音楽の奉仕に携わっている方、および奉仕の準備をしたい方。牧会者・教職者・信徒の方も参加できます。

講師：聖書宣教会教師・講師ほか

## ◎ 2021 年度 主要年間予定

### 2021 School Year

#### 2021

4月 6日(火)	入会式
4月 9日(金)	前期授業開始
5月21日(金)	祈りの日
6月 1日(火)～6月 2日(水)	特別講義
6月12日(土)	教会音楽のひととき
6月26日(土)～7月 2日(金)	集中講義
7月 3日(土)～8月26日(木)	夏期調整期間
7月 5日(月)～7月 6日(火)	夏期研修講座
7月中旬～	キャラバン伝道
8月中旬～	教会音楽夏期講習会
8月31日(火)	前期授業再開
10月 8日(金)	前期授業終了
10月 9日(土)～10月20日(水)	秋期調整期間

10月12日(火)～10月13日(水)	リトリート
10月21日(木)	後期授業開始
11月 6日(土)	オープンデー
11月18日(木)	祈りの日
11月27日(土)	賛美礼拝
12月 9日(木)～1月 3日(月)	クリスマス調整期間

#### 2022

1月 4日(火)	後期授業再開
2月 7日(月)	入会試験
2月11日(金)	信教の自由を守る日
3月 9日(水)	後期授業終了
3月10日(木)	卒論発表会
3月14日(月)	第63回卒業式

# 聖書宣教会 入会式のご案内

主の御名をあげます。

聖書宣教会のために、多くのお祈りをいただきありがとうございます。

2021年度は 聖書神学舎本科に7名、聖書神学舎聖書科・聖書専攻に1名の  
新入会生を迎え、下記のとおり入会式を行うはこびとなりました。

今回はコロナ対応のために羽村の学舎に大勢の皆さまをお迎えすることができ  
ません。オンライン配信でご参加いただき、お祈りとお励ましを賜りますよう  
ご案内いたします。オンライン配信については、後日、時期が近づいてから WEB  
サイトでご案内いたします。

日 時 2021年 4月 6日 (火) 10:30 ~ 12:15  
場 所 聖書宣教会礼拝堂  
説 教 コリント人への手紙第一 15章58節  
「主のわざに励みなさい」 鞭木 由行 師

	氏 名	出 身 教 会
聖書神学舎本科	阿 部 祐 <small>あ べ たすく</small>	十日市場めぐみキリスト教会 (日本福音キリスト教会連合)
	石 橋 美由紀 <small>いし ばし み ゆ き</small>	昭島めぐみ教会 (日本バプテスト連盟)
	竹 内 基 喜 <small>たけ うち もと き</small>	永福南キリスト教会 (日本福音キリスト教会連合)
	田 中 甲子郎 <small>た なか こうしろう</small>	玉川キリスト教会 (日本バプテスト教会連合)
	寺 村 幸 雄 <small>てら むら さち お</small>	篠山福音自由教会 (日本福音自由教会協議会)
	屋 田 理 江 <small>ひる た り え</small>	吉備聖約キリスト教会 (日本聖約キリスト教団)
	蛭 沼 拓 也 <small>ひる ぬま たく や</small>	東京武蔵野福音自由教会 (日本福音自由教会協議会)
聖書神学舎聖書科 聖書専攻	入 月 かおる <small>いり づき</small>	峡南キリスト教会 (日本福音キリスト教会連合)



# 教会音楽ニュースレター No. 23

聖書宣教会 聖書神学舎聖書科・教会音楽専攻

2021.3.1.発行

## 【卒業生の証し】

### 『主に導かれて』

川越聖書教会 音楽主事 新井久香

音楽主事として、神に仕え、人に仕え30年以上の月日が流れた。同じ音楽主事でも人それぞれ、違った道へと導かれるようだ。私は「礼拝のための祈り手」として召された。しかし、容易ではなかったので、いつもその奉仕が出来たわけではなかった。そのような私を、主は、あわれみの中に置いてくださった。

『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』申命記 6章5節

このみことばによって、力づけられ、励まされ、前へと進むことができた。

### 《日々の生活の中で》

『すべてのことにおいて感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたに望んでおられることです。』テサロニケ人への手紙 第一 5章18節

日々の生活の中で、教えられてきたことは、神の偉大さ、素晴らしさを日々思いめぐらし、日毎の恵みに感謝すること。日毎の感謝は、日毎の主への賛美へとつながった。オルガン・声楽の練習も、いつの間にか、主への賛美へと変えられて行った。

### 《聖歌隊の兄弟姉妹と共に学び労して》

私の教会の聖歌隊は、毎週日曜日の礼拝後30分から1時間、練習してきた。教会の婦人達への賛美指導、他教会の聖歌隊指導の時も、「声楽発声に関する事、曲目解説・作詞作曲者について」5分くらい話をしてきた。できない時もあったが、20分くらい長い時もあった。準備する事で、自分も学んだ。礼拝で、より良いものを捧げるために、共に学び労しているのだと思われた。

### 《日々のデポジションより》

数年前、出エジプト記の幕屋の設営のところを読んだ時、教えられたことがある。人間ひとりでは、幕屋を設営することが困難だと

いうことだ。彼らは協力して、神が命じられたすべての物を作るようになった。同じように、音楽の奉仕をする時に、音楽の賜物をいただいている他の兄弟姉妹と共に協力して、奉仕をしていくことを思わされた。クリスマスは、キリストのからだの部分であり、からだを建て上げるという尊い使命を与えられている。

『一つのからだには多くの器官があり、しかも、すべての器官が同じ働きをしてはいないように、大勢いる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、一人ひとり互いに器官なのです。』ローマ人への手紙 12章4～5節

人生には、自分で決断しなければならない出来事が、時々やってくる。Aにするか？Bにするか？それともCにするのか？選択しなければならない時がある。主のところへ持って行く。主に相談をする。過去に失敗をしたことがあるので、心に留めておきたいみことばだ。

『わたしの指示を仰がない。』（わたしの指示を仰ぎなさい。）イザヤ書 30章2節

### 《そして、現在》

『アブラハムは、主が告げられたとおりに出て行った。』創世記 12章4節

2019年、家族が次から次へと病気になる中、再び主からの召しがあった。

そして、2021年、現在、家族の介護とコロナ禍の中にいる。介護を通して、いろいろ教えられることも多い。聖歌隊は、コロナ禍で練習ができず、一年が経つ。「みことばと祈り」に続けて励むよう導かれている。そして、オルガンと歌の勉強もするよう導かれている。

お知らせ

2020年度卒業式・2021年度入会式についてはウェブサイトをご覧ください。

<http://www.bibleseminary.jp>

## 【鞭木師による「礼拝学」】

「教会音楽」を考える際に「礼拝について」を考え学ぶことはとても大切…との思いから、学舎で『礼拝学』を担当しておられる鞭木師にお話し、書き下ろしていただきました。

### 聖書に見る礼拝

ウエストミンスター小教理問答書は、冒頭で「人の主な目的は何ですか」と問うている。その答えはあまりにも有名である。

「人の主な目的は、神の栄光を現し、永遠に神を喜ぶことです。」

私たちの存在目的がそのようなものであれば、人間は最初から神を礼拝していたはずである。エデンの園においても、人は神を喜び、神との交わりを持っていたと思われる。従って、私たちが創世記の最初の記述の中に、何かそのようなことを求めて行くのは筋違いではない。残念ながら礼拝に関する直接的な記述はないが、あえてエデンの園で人間の神礼拝を示唆している箇所を挙げるとすれば、それは創世記3章8節以下である。

そよ風の吹くころ、彼らは、神である主が園を歩き回られる音を聞いた。それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて、園の木の間に身を隠した。神である主は、人に呼びかけ、彼に言われた。

「あなたはどこにいるのか。」彼は言った。「私は、あなたの足音を園の中で聞いたので、自分が裸であることを恐れて、身を隠しています。」

この神との会話は、すでにアダムとエバが神に背いた後のやりとりであり、決して礼拝の様子そのものではないが、ここから礼拝について何かを学び取ることができる。まず「そよ風の吹くころ」は、文字通りならば「その日の風の時に」ということである。「風」は旧約聖書では神の顕現のときの自然現象である。さらにニーハウスという学者は、ヘブル語の「日（ヨーム）」に相当するアッカド語「ウム」には「嵐」の意味があるので、それをを用いることができれば、「嵐の風」という意味が可能となることを示唆している(Niehaus, God at Sinai, p. 157)。「嵐の風」とはまさに神の顕現の印である。それはアダムにとっては恐ろしいような瞬間であったのかもしれない。ちなみに彼らが聞いた

「音（あるいは声）」も神顕現の印である。通常は「嵐の音、雷の音」を指す。また神が「園を歩き回られる」とは、イスラエルの幕屋における神の臨在を指すための言語表現である(レビ26:12, 申23:14, 2サム7:6~7)。従って、ここにはエデンの園と神殿とのアナロジーが示唆されていると思われる。エデンの園は、神と人との交わりの場であり、礼拝の場であった。神は「日の風の頃」人に定期的に現れ、神と被造物との交わりがもたれていたのであろう(G. Wenham, Genesis, p.76)。そして、ここには「神の音（あるいは声）」に対する人間の応答がある。しかし、この場合は人間の応答は罪のゆえに否定的なものにならざるを得なかった。音による神の現れ（語り）、人はそれを聞き、応答するという根本的関係がここにはあり、それは礼拝の本質を表していると言える。

聖書は、神を礼拝する理由として神の創造の偉大さを語っている。たとえば黙示録4章11節は「主よ。われらの神よ。あなたは、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方です。あなたは万物を創造し、あなたのみこころゆえに、万物は存在し、また創造されたのですから。」と言っている。であれば人間には墮落する前から神を礼拝する十分な理由があったのである。被造物である人間は、初めから創造者を礼拝すべき者であった。語りかける神にどのように応答するかという課題である。しかし、この度の礼拝は人が主の御顔を避けることによって成り立たなかったことで、礼拝を妨げるものが何かを教えている。それは人間の罪である。罪によって礼拝は、破壊され成り立たず、そこには「義」がなければならぬ。詩篇15:1~2はその原則をこう語っている。

「主よ。誰が、あなたの幕屋に宿る（礼拝に参加すること）のでしょうか。誰があなたの聖なる山に住むのでしょうか。正しく歩み、義を行い、心の中の真実を語る人。」

これは、礼拝の場に入るためには、義が必要であることを示している。これも礼拝の重要なテーマである。